

## 第1回学校評議員会議事録

日時 令和4年6月2日(木)午後4時～5時20分

場所 小会議室

### 1. 開会(小笠原教頭)

資料確認。学校要覧・進路ガイド(昨年度)・学校パンフレット(昨年度)配布。

### 2. 評議員委嘱(校長先生より各評議員へ委嘱状授与)

### 3. 校長挨拶(小俣義一校長)

学校評議員会から様々ご意見をいただきながら、学校運営に反映させていきたいと考えています。

二回目は生徒との交流を予定しています。

三回目は、学校で行う学校評価の結果と併せて、本校に対する客観的な評価をいただきたい。

私自身も感じるころだが、落ち着いた過ごしやすい学校という感想を持っている。コロナ対策・熱中症対策として、生徒に対しても気を緩めず感染対策を指導している。

広報活動に力を入れ、オープンスクールや部活動体験などを通して、本校の魅力を発信していきたい。

生徒定員減に伴い、職員も減っている。試行錯誤しながらよりよい環境にむけて改革していきたい。

生徒の評価方法については、様々な助言をいただきながら進めていきたい。

BYODの導入。今後の利活用について、研究していきたい。

(スクール・ミッション、スクールポリシーについて説明)

今年は重点的に「個別最適な学び」「共同的な学び」について進めていきたい。

### 4. 職員自己紹介

### 5. 学校評議員自己紹介

### 6. 報告

#### ① 昨年度の活動について(小笠原教頭より)

・第1回・第2回は予定通り実施。第3回はコロナ感染症のため中止。

・令和3年度学校評価報告書について資料で説明

○ICT推進について、「目的ではなく手段として使う」ことが大切という意見をいただく。

○土曜講座について、今年度は休止。検証していく。

○部活動の活性化について、魅力ある学校を目指して内外に意見を求めたらどうか。

○懸念事項……教員の負担増に対する懸念。

○コロナ禍においても高い水準での進路選択が出来ているとの評価。

#### ② 各分掌から

##### <教務部>

・教育課程については今年度1単位増やし32単位になった。生徒の進路実現や新課程の生徒にも対応。

○健康科学大学との連携も行い、進路実現のための教育を行っている。

○学校設定科目・演習科目を中心に、生徒の多様なニーズに対応。

○1・2年で基礎学力を、3年で演習を行う。

##### <生徒指導保健環境部>

・交通事故は7件、すべて自転車に関わる事故。交通講和・自転車点検も予定。交通事故0を目指す。

- ・問題行動はない。
- ・制服は、3学年すべて新制服揃う。制服はしっかり来ている。
- ・いじめについては、年3回の調査を行っている。昨年度1回目に案件が上がってきたが、部活動や担任等を中心に指導にあたっていた。2回目以降は、いじめ継続の報告なし。指導は継続していく。大きな学校行事があると、気持ちが伝わらない場合いじめやいざこざにつながる傾向有り。
- ・マナーアップについては、すべての回でPTAに協力いただき、見守っていただきたい。
- ・不審者情報は、Classiで配信。郡内地域の事件は、情報共有している。同時に自分の身を守る指導もしている。

#### <進路指導部>

- ・進路の内訳は、ここ五年ほど変わらない。
- ・推薦型の生徒が増加傾向。年越しをする生徒は減少傾向。受験手段の多様化もあり、自分の強みを生かした手段で進路実現をという指導もしている。
- ・国公立進学者数は、大きな変動なし。
- ・定員厳格化で厳しくなっていた私大が、コロナでやや緩やかになっているように感じる。追加合格も発生している。
- ・進路ガイドの合格体験記のページは、在校生のモチベーションにしているようだ。
- ・生徒一人一人を大切に、面倒見のいい河高を売りにしつつ、生徒をサポートしていきたい。
- ・土曜講座休止について説明。生徒の知的好奇心をくすぐりながら、生徒が自ら学ぶようになる手段を講じながら、進路実現に向けていきたい。

#### <生徒会指導部>

- ・現在は6/21・22の紫光祭へむけて準備を行っている。インターハイ予選もあるが、両立して頑張りたいと考える。
- ・高体連・高文連加盟の部活動に入っている生徒が、90%以上。
- ・ボランティア活動への参加も積極的に行っている。

#### <研究部>

- ・総合的な探究の時間について報告。地域でリーダー的な人材になることを目標に活動を行っている。
- ・「地域を知る」「課題を考える」「発信する」のプロセスを通して、進路実現につなげていく活動を目指して行っている。
- ・粟井財団の経済的援助も大きい。

### 7. 各評議員より

#### <A 評議員>

細かなカリキュラムはともかく、大まかな目標は何か？

様々な資料を見ると、いろいろなことが書かれている。一番上に来るのは「仰峰不屈」で、その下の様々な指導項目などがあるという理解でよいか。

(小俣校長)

そのような理解で結構です。表現は変わっても、根底にある目標は変わりません。

#### <B 評議員>

教員定数減の中でも頑張っていたらいる。

新制服が揃ったことによる生徒の一体感はあると思う。生徒が魅力を感じるものがあるということは志望選択の一つになるということもある。

地元のために働いている立派な先輩や知的な人材なども多くいる。生徒の励みにもなる。そういった裾野を広げて行っていただきたい。

#### <C 評議員>

全県一区の定着・また進路に対する考え方も多様化・進路の選択肢が地元や全日制に限らない傾向が強くなっている。私立志向も強まっている。

河高は、兄弟や親御さんの話から、丁寧な指導をしていただけることや無理をさせないなど、生徒のことをよく考えてくれているという評価。部活動も勝利至上主義ではなく、部活動が生涯スポーツの延長線になるような指導でよいと考える。生徒のことを第一に考えてくれることが河高の魅力につながっていくと考える。

#### <D 評議員>

年々先生たちの立場が大変だなと、見ていても聞いていてもわかる。部活動の外部指導者導入を、県を挙げて行っているところもあるように聞く。多様性ということもあり、通信や定時制に普通に行く生徒もいる。数字だけにとらわれる必要はない。

#### <A 評議員>

英語の学習について、世界の中でも学力があるはずの日本で「なぜ」というところを感じる。河高から、語学学習について研究して、発信していくという壮大なことも面白いのではないかな。

(英語科・笹本先生)

新教育課程でも実践的な英語に変わってきている。日本人は日本語ですべて何とかなってしまう。なくても生活できることが、英語が身につかない一つの原因なのではないかと思う。

カリキュラムが変わり、英語を使って自分の考えを伝えようという方向に変わっていると感じる。

#### <C 評議員>

何かの研修の機会があれば、生徒も変わるきっかけになるのではないかな。

(小俣校長)

昨年、カンボジアからの留学生がいた。非常に頑張っていた。生徒だけでなく、大人が失敗を恐れずやらせてみるという姿勢も大切だと感じる。今年は学園祭でスマホを使わせてくれという生徒からの申し出もあり、対応は大変だが生徒の意思表示ができてきたことにはうれしくも思う。

#### <C 評議員>

入学に際してPCを買わせた。どのように活用していくか考えていくことになる。課題だと思う。

(小俣校長先生)

課題だと感じている。活用すべき教員側にも得手不得手あり。

#### <D 評議員>

他県では、PC・タブレットから「いじめ」が広がったという問題もあったように聞く。

#### <A 評議員>

生活するなかで、(PC・タブレット) 当たり前のものになっている。活用について、研究してほしい。